

# 平成 28 年度



## 環境活動レポート



**株式会社 五日市塗装工業**

**平成 29 年 10 月 5 日作成**

**対象期間 平成 28 年 9 月 1 日～**

**平成 29 年 8 月 31 日**

## —目 次—

1. 組織の概要
2. 実施体制
3. 環境方針
4. 環境目標
5. 過去3年間の実績
6. 環境活動計画及び実施状況
7. 取組結果と評価
8. 次年度取組について
9. 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに  
違反、訴訟等の有無
10. 代表者による全体評価、これからに向けて

## 1. 組織の概要

### 株式会社 五日市塗装工業

〔事業所名〕 株式会社 五日市塗装工業

〔代表者〕 代表取締役 晴山 祐一

〔所在地〕 〒020-0122

本社 : 岩手県盛岡市みたけ三丁目1番36号

資材倉庫 : 岩手県盛岡市みたけ三丁目18番10号

〔環境管理責任者〕 唐芳 由美子

連絡先 TEL019-641-4601

〔事業内容〕 建築物の塗装及び各種吹付塗装工事、土木構造物・橋梁の塗装工事、  
防水及び防蝕工事、内装補修工事

〔対象範囲〕 全組織、全事業活動、全従業員を対象とする

〔事業規模〕 資本金 : 1,000 万円

売上 : 412,667 千円(H28 年度)

従業員 : 28 名(役員含む)

許可番号 : 岩手県知事(般—26)1430 号

事業所延床面積 : 171.4 m<sup>2</sup>

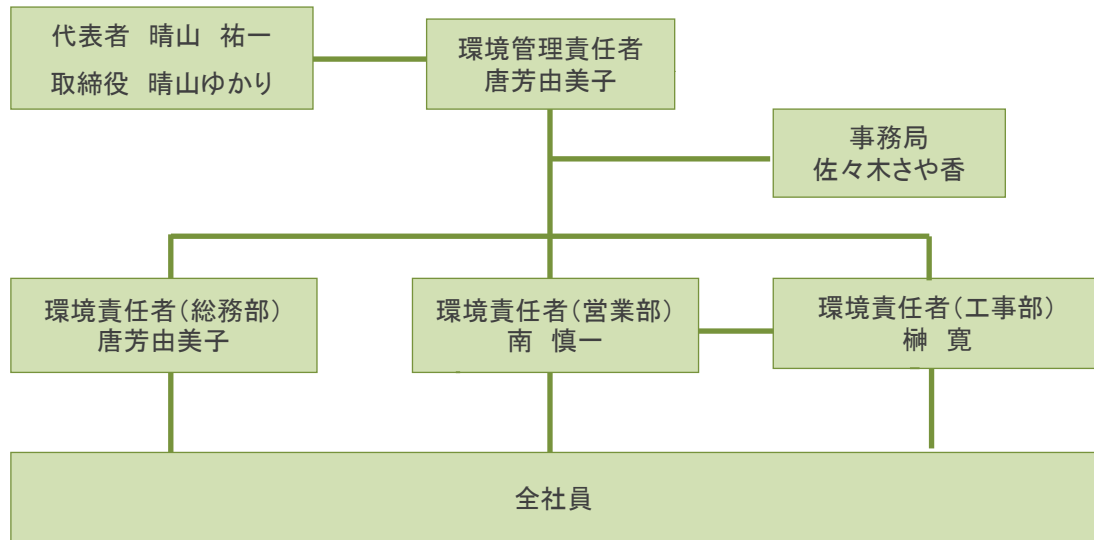
資材倉庫延床面積 : 567.1 m<sup>2</sup>

〔沿革〕

- ・昭和29年 5月 五日市恒見 盛岡市青山町に「五日市塗装店」として発足
- ・昭和40年 7月 岩手県知事許可(塗装工事業)
- ・昭和46年10月 株式会社五日市塗装工業に組織変更
- ・昭和48年 6月 本社を現在地に移転
- ・昭和53年 9月 資本金を 700 万円に増資
- ・平成 7年 1月 資本金を 1,000 万に増資
- ・平成11年11月 役員変更により代表取締役に晴山祐一が就任  
現在に至る

## 2. 実施体制

### (1) 組織図



### (2) 環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任。</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な資源を準備。</li> <li>・環境管理責任者を任命。</li> <li>・代表者による全体の評価と見直し。</li> </ul>
環境管理 責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理。</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告。</li> </ul>
環境 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐。</li> <li>・環境活動の推進。</li> <li>・環境活動の実績集計、取りまとめ及び文書記録類の作成・管理。</li> <li>・環境活動レポートの作成・公開。</li> </ul>
環境 責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境活動の実施</li> <li>・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。</li> </ul>
全社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。</li> </ul>

### 3. 環境方針

#### 【基本方針】

株式会社五日市塗装工業は、地球環境保全が人類共通の課題であることを認識し、人と環境にやさしい企業を目指し、継続的な環境負荷の低減に努めます。

何の不自由のない今、100年後にすべてのエネルギーが枯渇する危機感はないのが現状です。しかし一瞬で生活を一変させた東日本大震災。その現状をとらえ、将来を本気で考え今からできる事を少しでも継続させ、私達が未来をつくる気概で行動していきます。

#### 【活動方針】

株式会社五日市塗装工業は、事業活動によって生じる環境への悪影響を低減するために次の方針に基づき、限りある資源と自然環境の保全に積極的に取り組みます。

1. 当社の事業活動による環境影響を常に認識し、継続的改善と環境汚染の予防に努めます。
2. 環境に関連する法規ならびに規制基準を遵守し地域社会との調和に努めます。
3. 当社の事業活動において、以下を特に環境管理項目として取り組みます。
  - 1) 二酸化炭素排出量の削減
  - 2) リサイクル化の推進、廃棄物排出量の削減
  - 3) 総排水量の削減
  - 4) リサイクル品の積極的活用と資源の再利用(グリーン購入)
  - 5) 地域での社会貢献活動
  - 6) 環境対策型工法の普及(遮熱・断熱塗装、しっくい塗装を広める)
  - 7) 化学物質の削減、廃水処理・水質汚濁の防止
4. 全社員に対してこの環境方針の周知を図り、環境教育・人材育成を積極的かつ継続的に行います。

制定日 平成24年6月30日

代表者氏名 晴山 祐一

## 4. 環境目標

平成 26 年度を基準とした、平成 28～30 年度の目標値は以下の通りである。

		基準年度 (H26年度)	目標値		
		基準値	H28年度	H29年度	H30年度
二酸化炭素排出量 (電気・ガソリン・軽油・灯油・ガス)	(kg)	78,363	76,012	76,012	75,228
	削減目標 (%)		3	3	4
電気使用量	(kwh)	8,453	8,284	8,199	8,115
	削減目標 (%)		2	3	4
ガソリン使用量	(ℓ)	15,668	15,355	15,198	15,198
	削減目標 (%)		2	3	3
軽油使用量	(ℓ)	12,573	12,322	12,196	12,196
	削減目標 (%)		2	3	3
灯油使用量	(ℓ)	1,450	1,392	1,392	1,378
	削減目標 (%)		4	4	5
LPガス使用量	(kg)	128	123	123	122
	削減目標 (%)		4	4	5
一般廃棄物の削減	(kg)	6,830	6,625	6,557	6,557
	削減目標 (%)		3	4	4
産業廃棄物の削減	(kg)	43,970	43,091	42,651	42,651
	削減目標 (%)		2	3	3
節水	(m <sup>3</sup> )	318	312	308	308
	削減目標 (%)		2	3	3
環境配慮商品の提案と販売促進	件数	56	65	65	70
環境苦情	件数	0	0	0	0
環境効率性の増加	完工高/CO2排出量	5,969	6,208	6,327	6,447
	増加目標 (%)		4	6	8
溶剤塗料の削減(公共・下請工事)	(kg)	10,571	10,042	10,042	9,937
	削減目標 (%)		5	5	6
溶剤塗料の削減(元請工事)	(kg)	5,130	4,822	4,822	4,771
	削減目標 (%)		6	6	7
事務用品のグリーン購入	目標品種数	52	70	75	80
コピー枚数の削減	(枚)	71,784	68,913	68,913	68,915
	削減目標 (%)		4	4	5
EA21取組み教育	回	3	3	3	3
緊急事態訓練	回	1	1	1	1
職場体験の受け入れ	回	1	3	4	4
エコキャップ回収と送付	個数	2,193	2,300	2,300	2,300
使用済み切手の回収と送付	g	80	80	80	80

(注意) 購入電力の二酸化炭素排出係数は環境報道発表(平成 26 年 12 月)の東北電力の実績排出係数 0.591kg-CO<sub>2</sub>/kwhを使用。

## 5. 過去3年間の実績

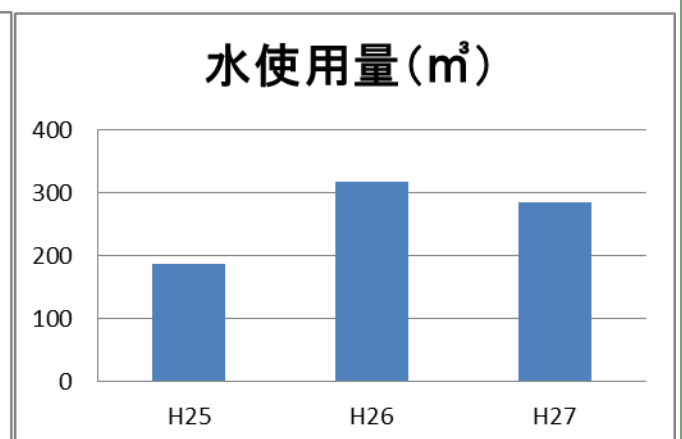
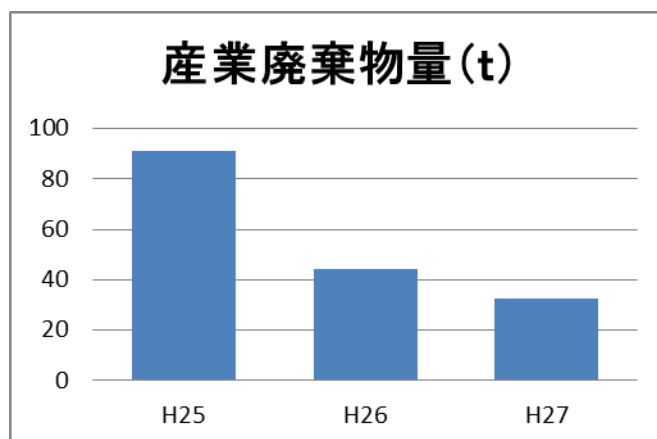
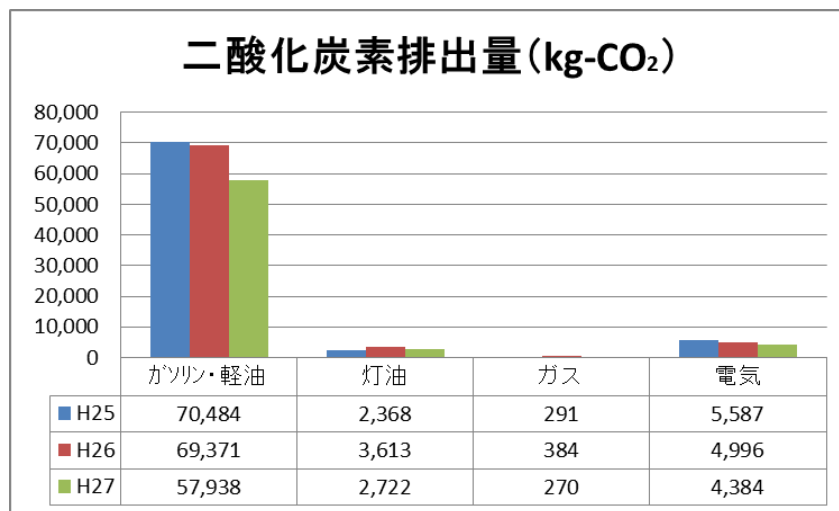
二酸化炭素排出量(電気・ガス・ガソリン・灯油)、廃棄物量、水使用量の過去3年間の実績を下表及びグラフに示す。

環境負荷項目	単位	H25年度		H26年度		H27年度	
		消費量	排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	消費量	排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	消費量	排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )
購入電力	kWh	9,453	5,587	8,453	4,996	7,418	4,384
灯油	L	951	2,368	1,450	3,613	1,092	2,722
LPG	kg	97	291	128	384	90	270
ガソリン・軽油	L	28,769	70,484	28,241	69,371	23,558	57,938
CO <sub>2</sub> 排出量計			78,730		78,364		65,314
環境効率性(売上/CO <sub>2</sub> 排出量)			5,122		5,865		6,403

※排出係数

ガソリン:2.32kg-CO<sub>2</sub>/L 灯油:2.49kg-CO<sub>2</sub>/L 電気:0.591kg-CO<sub>2</sub>/kWh

ガス:3.00kg-CO<sub>2</sub>/kg 軽油:2.62kg-CO<sub>2</sub>/L



## 6. 環境活動計画及び実施状況

チェック実施者：環境事務局 チェック日：平成 29 年 9 月 25 日

	環境目標項目	取組内容	責任者	実施状況※	評価
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素排出量の削減	昼休み休憩・外出時・残業時は不必要な個所は消灯し、パソコンの電源は切る。夏期（7～8月）は給湯器の電源を切る。	総務	2	○
		冷暖房時の室温（冷房 28℃、暖房 20℃）を順守する。		2	
		アイドリングストップの実践と急発進・急加速はしない。	総務	1	△
		タイヤの空気圧は、適正値を保つよう定期的に調整する。		2	
廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	打合せ・会議の資料等はプロジェクター等の活用、電子メール・PC ファックス・社内ネットワーク等の利用でペーパーレス化を図る。	総務	2	○
		機能印刷（両面印刷、集約印刷、製本印刷等）を使い、印刷前の確認をしてムダを削減する。		2	
		使用済み用紙（片面コピー）の裏面利用と郵便・宅配等は簡易包装に努める。		2	
		紙・金属缶・ペットボトル等は確実に分別し、再資源業者に引き渡しリサイクルする。		2	
	産業廃棄物（建設副産物）の削減	廃油、廃プラスチック、金属くず、ガラスくずなどは所定の置場に分別保管し、できるものは有価物化する。	工事	2	○
		飛散、漏洩、悪臭、印象など、保管の状態に問題がないよう適正な管理を行う。		2	
		産業廃棄物管理票（マニフェスト）をもとに廃棄物の適正な処理を行う。	総務	2	



	環境目標項目	取組内容	責任者	実施状況※	評価
節水	水道水の削減 (節水)	水道を流しながら使用しない。	総務	2	○
環境対策工法	エコリフォーム	環境配慮型商品を顧客に提案し、販売を促進する。	営業	1	×
	環境配慮工事	道具洗浄汚染水ろ過機の使用で不純物の下水流出をゼロにする。	工事	1	
その他	グリーン購入	事務用品は環境に配慮したものを優先的に購入する。(エコマークなど)	総務	2	○
	社員教育	役割と責任・権限に関する教育	各部門	2	
		行動計画の内容、手順に関する教育		1	
		環境関連法令の理解と遵守手順		2	
	地域活動	インターンシップを通して、生徒にCO2削減の意義を伝える。	総務	2	
		エコキャップ、使用済み切手の回収をし、回収団体に送る。		2	
	騒音や悪臭が発生する恐れがある作業を行う場合は、作業方法、時間帯等に配慮する。	工事	2		
合計点			42点中	38	○
			達成率	90.5%	

※取組んでいる「2」、さらに取組が必要「1」、取組んでいない「0」

※評価欄の達成度 ○：90%以上 △：70～90% ×：70%以下

## 7. 取組結果と評価

### (1) 目標値と実績値及び評価

基準値(平成 21 年度)、今期(平成 28 年度)の目標値と実績値・評価を下表に示す。

		基準値 (H26年度)	目標値	実績値	評価
二酸化炭素排出量 (電気・ガソリン・軽油・灯油・ガス)	(kg)	78,363	76,012	64,816	○
電気使用量	(kwh)	8,453	8,284	7,074	○
ガソリン使用量	(ℓ)	15,668	15,355	11,097	○
軽油使用量	(ℓ)	12,573	12,322	11,960	○
灯油使用量	(ℓ)	1,450	1,392	1,168	○
LPガス使用量	(kg)	128	123	192	×
一般廃棄物の削減	(kg)	6,830	6,625	4,115	○
産業廃棄物の削減	(kg)	43,970	43,091	28,750	○
節水	(m <sup>3</sup> )	318	312	240	○
環境配慮商品の提案と販売促進	件数	56	65	51	×
環境苦情	件数	0	0	0	○
環境効率性の増加	完工高/CO2排出量	5,969	6,208	6,367	○
溶剤塗料の削減(公共・下請工事)	(kg)	10,571	10,042	12,910	×
溶剤塗料の削減(元請工事)	(kg)	5,130	4,822	4,846	×
事務用品のグリーン購入	目標品種数	52	70	127	○
コピー枚数の削減	(枚)	71,784	68,913	72,546	×
EA21取組み教育	回	3	3	3	○
緊急事態訓練	回	1	1	1	○
職場体験の受け入れ	回	1	3	5	○
エコキャップ回収と送付	個数	2,193	2,300	868	×
使用済み切手の回収と送付	g	80	80	69	×

注意

購入電力の二酸化炭素排出係数は環境報道発表(平成 24 年 1 月)の東北電力の実績排出係数 0.591kg-CO<sub>2</sub>/kwhを使用。

## (2)各項目についての考察

### ①二酸化炭素排出量 評価:○

基準値より17%削減することができた。

### ②電気使用量 評価:○

節電意識の定着で目標達成した。

### ③ガソリン使用量 評価:○

基準年と比較して遠方の現場が少なく、車両走行距離が減少し、目標達成した。

### ④軽油使用量 評価:○

基準年と比較して遠方の現場が少なく、車両走行距離が減少し、目標達成した。

※③・④に関して、走行距離は基準年 276,717km、今期 195,515km だった。  
(ガソリン車・軽油車合算)

### ⑤灯油使用量 評価:○

基準年は現場事務所を設置した期間があったが、今期は事務所のみで使用で、温度設定管理に留意し、目標達成した。

### ⑥LP ガス使用量 評価:×

冬期間の給湯器使用が多く、設定温度も高かったため、目標達成出来なかった。

### ⑦一般廃棄物の削減 評価:○

分別・リサイクル意識が定着しており、可燃ごみが減少、目標達成した。  
リサイクルにまわした品種と重量は下表に示す。

	段ボール	紙	ペットボトル	合計
平成26年度	1,125	435	2	1,562
平成27年度	570	231	5	806
平成28年度	1,020	245	7	1,272

(単位:kg)



段ボール・紙類の一部

**⑧産業廃棄物の削減 評価:○**

大規模現場が少なく、排出量が抑えられ、目標達成した。

**⑨節水 評価:○**

節水意識の定着で目標達成した。

**⑩環境配慮商品の提案と販売促進 評価:×**

チラシ等でオリジナルブランド セラフロンiシリーズ及び屋根遮熱塗装をアピールしたが、目標達成出来なかった。

※フッ素無機樹脂塗料(オリジナルブランド セラフロンiシリーズ)の特長

- ・耐候性の最上位であるフッ素樹脂塗料の1.5倍の耐候性を保持。  
→メンテナンス回数が少なくなり、CO2排出量を抑えることができる。
- ・一般的な塗料が3回塗り工程を要するのに対し、2回塗りに対応しており、コストパフォーマンスに優れている。  
→工期が短縮され、従来の工程よりもCO2排出量・廃棄物を抑えることができる。
- ・分子結合の応用により、従来販売の遮熱塗料と同等の性能を発揮することができる。  
→今後の環境対策に追従できる。

**⑪環境苦情 評価:○**

苦情は無かった。

**⑫環境効率性の増加 評価:○**

目標達成した。

平成 24 年度からの実績を下表に示す。

	完工高(円)	CO <sub>2</sub> 排出量(kg)	環境効率性
平成24年度	314,431,890	65,975	4,766
平成25年度	403,268,207	77,283	5,218
平成26年度 (基準年度)	459,591,788	78,363	5,865
平成27年度	418,185,912	65,315	6,403
平成28年度	412,667,209	64,816	6,367

**⑬溶剤塗料の削減(公共・下請工事):×**

溶剤塗料購入量が目標を上回り、達成出来なかった。

**⑭溶剤塗料の削減(元請工事):×**

溶剤塗料購入量が目標を上回り、達成出来なかった。全塗料に対する水性塗料の割合を増加させることは出来た。

※⑬・⑭に関して下表に示す。

H26年度(H26.9~H27.8)基準年				
	溶剤	弱溶剤	水性	水性塗料の割合
公共・民間下請	10,571	20,812	8,473	21%
民間元請	5,130	7,586	1,791	12%
計	15,702	28,398	10,264	19%
			(単位:kg)	
H28年度(H28.9~H29.8)				
	溶剤	弱溶剤	水性	水性塗料の割合
公共・民間下請	12,910	20,673	7,688	19%
民間元請	4,846	8,835	2,875	17%
計	17,756	29,508	10,563	18%
			(単位:kg)	

**⑮事務用品のグリーン購入 評価:○**

購入品種が増加し、目標達成した。

**⑯コピー枚数の削減 評価:×**

提出書類の増加で、目標達成とならなかった。書類が増加すると、ミスも比例して増加すると思われる。

**⑰EA21 取組み教育 評価:○**

取組教育を引き続き行った。

**⑱緊急事態訓練 評価:○**

訓練を引き続き行った。

**⑲職場体験の受け入れ 評価:○**

目標達成した。

**⑳エコキャップ回収と送付 評価:×**

回収と送付はすることが出来た(H29.8.29)。個数は目標数に届かなかった。

エコキャップは岩手大学を通じて授産施設けやき学園に送られる。キャップは洗浄・選別・粉碎・ペレット加工を経て、プランター等に再生される。

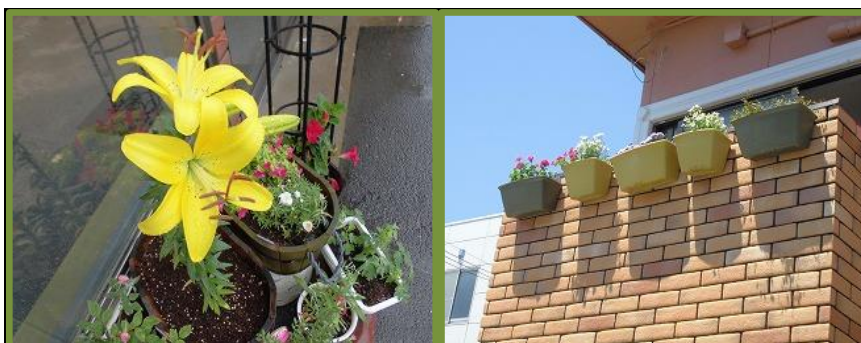
**㉑使用済み切手の回収と送付 評価:×**

回収と送付はすることが出来た(H29.8.29)。目標数字には届かなかった。

使用済み切手は岩手大学を通じて換金後、JOCSの海外医療協力の費用の一部となる。

### (3) その他活動について

職場環境の向上とエコ効果のために、鉢植えを設置した。



## 8. 次年度取組について

### (1) 中期目標

H28～30 年度の中期目標を下表に示す。

		基準年度 (H26年度)	目標値		
		基準値	H29年度	H30年度	H31年度
二酸化炭素排出量 (電気・ガソリン・軽油・灯油・ガス)	(kg)	78,363	76,012	75,228	75,228
	削減目標 (%)		3	4	4
電気使用量	(kwh)	8,453	8,199	8,115	8,030
	削減目標 (%)		3	4	5
ガソリン使用量	(ℓ)	15,668	15,198	15,198	15,198
	削減目標 (%)		3	3	3
軽油使用量	(ℓ)	12,573	12,196	12,196	12,196
	削減目標 (%)		3	3	3
灯油使用量	(ℓ)	1,450	1,392	1,378	1,378
	削減目標 (%)		4	5	5
LPガス使用量	(kg)	128	123	122	122
	削減目標 (%)		4	5	5
一般廃棄物の削減	(kg)	6,830	6,557	6,557	6,489
	削減目標 (%)		4	4	5
産業廃棄物の削減	(kg)	43,970	42,651	42,651	42,211
	削減目標 (%)		3	3	4
節水	(m <sup>3</sup> )	318	308	308	305
	削減目標 (%)		3	3	4
環境配慮商品の提案と販売促進	件数	56	65	70	70
環境苦情	件数	0	0	0	0
環境効率性の増加	完工高/CO2排出量	5,969	6,327	6,447	6,506
	増加目標 (%)		6	8	9
溶剤塗料の削減(公共・下請工事)	(kg)	10,571	10,042	9,937	9,937
	削減目標 (%)		5	6	6
溶剤塗料の削減(元請工事)	(kg)	5,130	4,822	4,771	4,771
	削減目標 (%)		6	7	7
事務用品のグリーン購入	目標品種数	52	75	80	80
コピー枚数の削減	(枚)	71,784	68,913	68,195	68,195
	削減目標 (%)		4	5	5
EA21取組み教育	回	3	3	3	3
緊急事態訓練	回	1	1	1	1
職場体験の受け入れ	回	1	3	4	4
エコキャップ回収と送付	個数	2,193	2,300	2,300	2,300
使用済み切手の回収と送付	g	80	80	80	80

注意

購入電力の二酸化炭素排出係数は環境報道発表(平成 24 年 1 月)の東北電力の実績排出係数 0.591kg-CO<sub>2</sub>/kwhを使用。

取組は、環境活動計画の取組内容を継続していく。



## 9. 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 違反、訴訟等の有無

### (1) 当社の事業に関する環境関連法規

関連法規	対象となる業務	確認内容	遵守状況	確認日
廃棄物処理法	保管用表示設置	設置場所の確認	○	9月1日
	収集・運搬業者と委託	契約書の確認	○	9月1日
	マニフェストの保管	搬入状況の確認	○	9月1日
	マニフェスト交付報告書の知事への届出	H29年5月に届出	○	9月1日
消防法	塗料の管理・保管方法	保管場所の確認	○	9月1日
騒音規制法	現場での適正工事	現場スタッフへの聞き取りで苦情等なし	○	9月1日
悪臭防止法	現場での適正工事	現場スタッフへの聞き取りで苦情等なし	○	9月1日

### (2) 環境関連法規に関する調査結果

当社が法的義務をうける環境関連法規について、違反はなかった。

また、過去5年間、関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題はなかった。

## 10. 代表者による全体評価、これからに向けて

今まで取り組んできた事として、公共工事受注を少なくしコピー用紙・印刷、遠方交通費の軽減に努め、受注先やエリアを絞りこんで販促に努めてきました。

経営計画には環境対策工法の提案等盛り込んでおるものの、PR方法の甘さやその場の忙しさから進める事が出来ず現在に至っている状況に対して、これからEA21目標達成するには、乾いたタオルを絞るようなものと感じています。

無理なく続け達成するためには、単純に今やっている事をやめればよいと思いき、昨年より少しずつですがやめる事をしていきます。

書類やデータ作成等必要な作業ではありますが、ムダが多いのは事実です。



やっていると新しい事も見えてきました。情報過多で競争が増し、人間本来の幸せが日々なくなっていくこの時代に、経営を通して本質をもっと全社員で追求していく事でEA21は自然なものと捉える事が出来ると思っています。

環境工法を含めての顧客への提案や告知など個人的考え方で行っていたことが相手への押しつけになっていた事などの気づきもあり、委託によるリサーチや外部を含めたプロジェクトの立上げなど今までとはまったく違う展開を構築中です。

そこから新たな気づきによって方針に沿う行動していきたいと思っています。